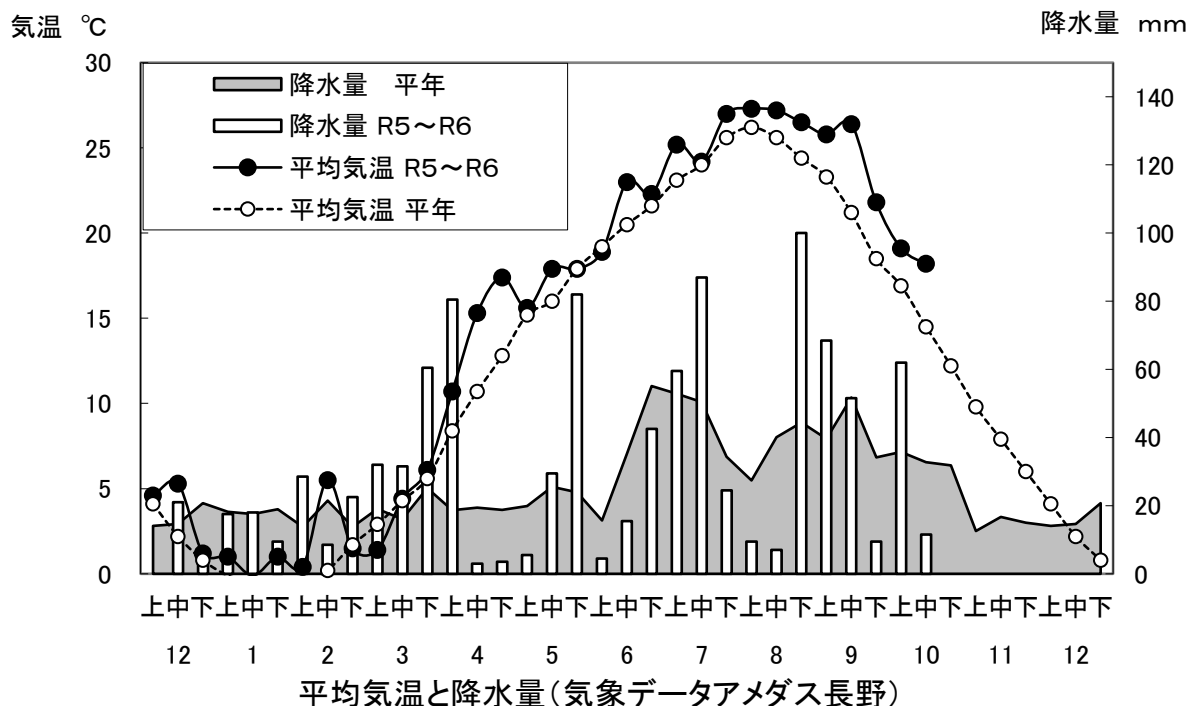


農作物の生育状況（10月23日現在）について

令和6年10月23日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稲

9月はじめから収穫が始まり、収穫終盤を迎えている。8月下旬の降雨により広い範囲で倒伏が発生し、一部で収穫が遅れたが、現在は平年並みの進展となった。胴割粒・白未熟粒による等級落ちは昨年よりは少ないが、平年より多く、信濃町と高山村では斑点米の発生が多い。収量はほ場により差が大きく、平均すると平年並みかやや悪い見込みで、全体に小粒傾向。また、茶米が平年より多い。

(2) 大豆

標準播種大豆は落葉期～成熟期、麦後播種大豆は黄葉期～落葉期を迎えているが、青立ちしているほ場も多く、落葉が遅れている。高温で降水量が多かったため草丈が伸びたが、害虫による葉・莢・実の食害が目立つ。また、帰化アサガオ類の発生が多い。

(3) ソバ

9月末から収穫が始まり、現在は信濃町と長野市南部でまだ収穫作業が行われている。戸隠は生育は良かったものの実入りが悪く、特に倒伏ほ場で減収となった。千曲は湿害ほ場収では大きく減収となったが、その他のほ場では平年より収量が良かった。信濃町は昨年より1等が多い見込み。

【果樹】

(1) りんご

中性種の収穫期を迎えている。早生種と同様、外観の着色よりも内部の酸抜けや硬度低下が早く、“内部先熟”となっている。気温はやや下がってきたものの、依然として平年より高い状況が続いており、「シナノスイート」は着色不良のまま収穫期を迎えている。一方「シナノゴールド」は酸抜けが早く、甘みが際立ち酸を感じない。肥大は良好で、「ふじ」の10月1日調査では前年比縦98%、横97%、平年比縦97%、横94%とともに前年及び平年並みとなっている。病害では炭そ病、輪紋病の発生が多く、特に「シナノゴールド」で目立つ。ヨトウムシの加害も依然として散見されている。

(2) ぶどう

「クイーンルージュ®」、「シャインマスカット」とも収穫終盤を迎えている。肥大や糖度等は良好であるが、「クイーンルージュ®」は色上りが悪く、晩腐病が多発している。「シャインマスカット」では、遅伸びした副梢を中心に黒とう病の発生が増加している。

【野菜】

(1) アスパラガス

株養成も終盤となり黄化が始まる。一部の早期に雨よけを除去したほ場や防除タイミングを逸したほ場では、褐斑病や斑点病が散見された。オオタバコガの食害が目立つほ場もある。

(2) 果菜類

トマトの抑制作型（8月初旬定植）は、平年並みで6～7段果房まで着果、1～2段収穫済み。一部で裂果が目立つ。タバコガの被害も散見される。抑制キュウリも生育は比較的順調。

露地ピーマンは、樹勢が回復し、茎葉の伸張が良好になったが、早期にウイルス感染した株では奇形果が多い。全体に着果は良好だが枝の垂れ下がり等も見られる。オオタバコガによる食害に加えカメムシの吸汁被害と思われる着色不良も見られる。

(3) ナガイモ

萌芽から初期生育は良好。本年2回目の試し掘り（9月12日）では、8月以降の降雨で急激に肥大したためか亀裂（縦割れ）が若干目立つ。長さは平年より若干短い傾向だが、重量はある。

【花き】

トルコギキョウの抑制作型となる7月下旬定植で出荷期を迎えている。生育は、定植期からの高温により前進傾向。一部のほ場で立枯病、ウイルス病、青枯病の発生が見られる。

【畜産】

永年性牧草は9月中旬から3番草の収穫が始まり、生育終盤となっている。草丈は30~40cm程度、生育は平年並みとなっている。